

四條畷市教育委員会ニュース

(学校教育課)

内容：

- ・アクティブ・ラーニング
- ・発達障害早期支援研究事業
- ・授業のユニバーサルデザイン

アクティブ・ラーニングってなに？



子どもたちで学びを深めます。

市立各小・中学校では、第2期学力向上3ヶ年計画に基づいた取組みを行なっています。今後3年間、学力向上に向けた更なる成果をあげるための計画として、①畷の授業スタンダードの確立、②フォローアップ対策、③家庭学習の習慣化や基本的な生活習慣の定着、④小中連携・一貫教育の4つの柱から成り立っています。

今回は、①畷の授業スタンダードの確立としての取組みを紹介します。まずは、四條畷東小学校が市

内研究指定校として取組んでいるアクティブ・ラーニングの取組みです。

これまでの授業の流れは、先生が一方向的に話を進める講義形式が多く見られました。しかし、現在は学んだ内容に加え、学び方の質が重要であることから、何が出来るようになるのか・何を学び・どのように学ぶのかを意識し、子どもたちが主体的に課題解決する場面の設定を意識した授業づくりを進めています。この考え方がアクティブ・ラーニングです。



次に紹介するのは、発達障害早期支援研究事業です。

発達障害早期支援研究事業



今年から、文部科学省委託事業として、市内の全

小・中学校で「すべての子どもが『わかる』『できる』が体感できる授業づくり」



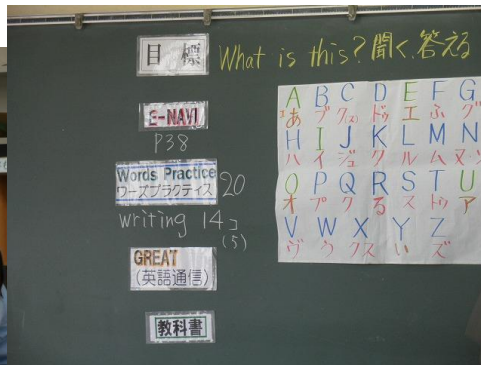
どのようなことから取組めばよいのか真剣な討議が続きます。

を実現するために、子ども一人ひとりの実態把握を行い、児童・生徒が理解しやすいよう「めあて」や「学習のながれ」等を提示した見通しを持てる授業の改善（授業のユニバーサルデザイン、支援教育の視点を取り入れた授業づくり）を行なっています。

授業のユニバーサルデザイン化

ユニバーサルデザインは、あらかじめ、障がいの有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、多様な人々が利用し

やすいよう都市や生活環境をデザインする考え方です。学校教育の授業に、その考えを取り入れたのが授業のユニバーサルデザイン化です。



この考えをもとに、市内全小・中学校では授業のねらいや学習内容を焦点化してすることをはっきりさせ、わからないときのヒントがいつでも確認できるよう視覚化し、みんなで考え、理解を深めるよう共有化できる授業づくりを進めています。また、授業だけでなく教室や学校環境にも誰もが過ごしやすいユニバーサルデザイン化に取り組んでいる学校があります。



掃除をする場所によって分けられています。いつでもわかりやすいぞうきんの置き場所です。

荷物が多くて狭く感じる教室の対策として、学習空間を設ける工夫のひとつです。教室の後ろにあるロッカーの上にカバン置き場が作ってあります。



いつも気持ちよく整理整頓されている児童・生徒用の下足室（左は小学校・右は中学校）